

1. 決まり字「さ」の歌の下のはどれでしょう。
ア みをつくしてや 戀ひわたるべき
ウ いづこも同じ 秋の夕暮
イ 戀しかるべき 夜半の月かな
エ 山の奥にも 鹿ぞなくなる
2. 決まり字「ほ」の歌の下のはどれでしょう。
ア わが衣手は 露にぬれつつ
ウ 焼くや藻塩の 身もこがれつつ
イ ただ有明の 月ぞ残れる
エ まつとし聞かば 今帰り来む
3. 「廻り逢ひて 見しやそれとも わかぬまに」 この上の句に続く下のはどれでしょう。
ア 松も昔の 友ならなくに
ウ あしのまろやに 秋風ぞ吹く
イ 雲がくれにし 夜半の月かな
エ 濡れにぞ濡れし 色はかはらず
4. 「村雨の 露もまだひぬ 槇の葉に 霧立ちのぼる 秋の夕暮」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 元良親王
ウ 寂蓮法師
イ 源重之
エ 菅家
5. 「寂しさに 宿を立ち出でて 眺むれば いづこも同じ 秋の夕暮」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 皇嘉門院別当
ウ 良暹法師
イ 光孝天皇
エ 藤原清輔朝臣
6. 「吹くからに 秋の草木の しをるれば」 この上の句に続く下のはどれでしょう。
ア むべ山風を あらしといふらむ
ウ 流れもあへぬ 紅葉なりけり
イ 人にはつげよ あまの釣舟
エ 濡れにぞ濡れし 色はかはらず
7. 「住の江の 岸に寄る浪 よるさへや 夢の通ひ路 人目よくらむ」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 祐子内親王家紀伊
ウ 伊勢
イ 源宗行朝臣
エ 藤原敏行朝臣
8. 決まり字「め」の歌の下のはどれでしょう。
ア わが衣手に 雪は降りつつ
ウ あはで此の世を すぐしてよとや
イ 雲がくれにし 夜半の月かな
エ わが衣手は 露にぬれつつ
9. 決まり字「ふ」の歌の下のはどれでしょう。
ア むべ山風を あらしといふらむ
ウ つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける
イ 忍ぶることの 弱りもぞする
エ 行方もしらぬ 戀の道かな
10. 「住の江の 岸に寄る浪 よるさへや」 この上の句に続く下のはどれでしょう。
ア 今ひとたびの みゆき待たなむ
ウ 吉野の里に 降れる白雪
イ 夢の通ひ路 人目よくらむ
エ 砕けてものを 思ふ頃かな

1. 決まり字「せ」の歌の下のはどれでしょう。
 ア いくよ寝覚めぬ 須磨の関守
 ウ 外山の霞 立たずもあらなむ
 イ 長くもがなと思ひけるかな
 エ われても末に 逢はむとぞ思ふ
2. 決まり字「ほ」の歌の下のはどれでしょう。
 ア かこち顔なる わが涙かな
 ウ 山の奥にも 鹿ぞなくなる
 イ むべ山風を あらしといふらむ
 エ ただ有明の 月ぞ残れる
3. 決まり字「さ」の歌の下のはどれでしょう。
 ア 身をつくしても 逢はむとぞ思ふ
 ウ 名こそ流れて なほ聞えけれ
 イ いづこも同じ 秋の夕暮
 エ 憂きに堪へぬは 涙なりけり
4. 「ほととぎす 鳴きつる方を 眺むれば ただ有明の 月ぞ残れる」 この歌の作者はだれでしょう。
 ア 中納言兼輔
 ウ 後徳大寺左大臣
 イ 素性法師
 エ 参議等
5. 「村雨の 露もまだひぬ 模の葉に」 この上の句に続く下のはどれでしょう。
 ア しづごころなく 花の散るらむ
 ウ 忍ぶることの 弱りもぞする
 イ つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける
 エ 霧立ちのぼる 秋の夕暮
6. 「吹くからに 秋の草木の しをるれば」 この上の句に続く下のはどれでしょう。
 ア われても末に 逢はむとぞ思ふ
 ウ 晝は消えつつ ものをこそ思へ
 イ さしも知らじな もゆる思ひを
 エ むべ山風を あらしといふらむ
7. 「廻り逢ひて 見しやそれとも わかぬまに」 この上の句に続く下のはどれでしょう。
 ア ながながし夜を ひとりかもねむ
 ウ いでそよ人を 忘れやはする
 イ みだれて今朝は ものをこそ思へ
 エ 雲がくれにし 夜半の月かな
8. 「廻り逢ひて 見しやそれとも わかぬまに 雲がくれにし 夜半の月かな」 この歌の作者はだれでしょう。
 ア 藤原基俊
 ウ 紫式部
 イ 後鳥羽院
 エ 祐子内親王家紀伊
9. 「寂しさに 宿を立ち出でて 眺むれば」 この上の句に続く下のはどれでしょう。
 ア むべ山風を あらしといふらむ
 ウ いづこも同じ 秋の夕暮
 イ もれ出づる月の 影のさやけさ
 エ 吉野の里に 降れる白雪
10. 「吹くからに 秋の草木の しをるれば むべ山風を あらしといふらむ」 この歌の作者はだれでしょう。
 ア 中納言兼輔
 ウ 菅家
 イ 文屋康秀
 エ 後鳥羽院

1. 「瀬を早み 岩にせかる 瀧川の」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 故郷寒く 衣うつなり イ われても末に 逢はむとぞ思ふ
ウ もれ出づる月の 影のさやけさ エ なほあまりある 昔なりけり
2. 「住の江の 岸に寄る浪 よるさへや 夢の通ひ路 人目よくらむ」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 源重之 イ 紫式部
ウ 祐子内親王家紀伊 エ 藤原敏行朝臣
3. 「村雨の 露もまだひぬ 槇の葉に」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 霧立ちのぼる 秋の夕暮 イ 故郷寒く 衣うつなり
ウ むべ山風を あらしといふらむ エ ただ有明の 月ぞ残れる
4. 決まり字「さ」の歌の下句はどれでしょう。
ア 人にはつげよ あまの釣舟 イ ねやのひまさへ つれなかりけり
ウ あはれ今年の 秋も去ぬめり エ いづこも同じ 秋の夕暮
5. 「寂しさに 宿を立ち出でて 眺むれば いづこも同じ 秋の夕暮」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 式子内親王 イ 良暹法師
ウ 紀貫之 エ 貞信公
6. 「住の江の 岸に寄る浪 よるさへや」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 戀に朽ちなむ 名こそ惜しけれ イ 海士の小舟の 綱手かなしも
ウ 人こそ知らね 乾く間もなし エ 夢の通ひ路 人目よくらむ
7. 「吹くからに 秋の草木の しをるれば むべ山風を あらしといふらむ」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 陽成院 イ 文屋康秀
ウ 順徳院 エ 二条院讃岐
8. 「廻り逢ひて 見しやそれとも わかぬまに 雲がくれにし 夜半の月かな」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 紫式部 イ 左京大夫顕輔
ウ 阿倍仲麻呂 エ 入道前太政大臣
9. 「寂しさに 宿を立ち出でて 眺むれば」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 霧立ちのぼる 秋の夕暮 イ いづこも同じ 秋の夕暮
ウ まだふみも見ず 天の橋立 エ 世に逢坂の 関はゆるさじ
10. 「吹くからに 秋の草木の しをるれば」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 雲がくれにし 夜半の月かな イ いくよ寝覚めぬ 須磨の関守
ウ あはれ今年の 秋も去ぬめり エ むべ山風を あらしといふらむ

答え（百人一首クイズ・一字決まり）

1回目

1. ウ いづこも同じ 秋の夕暮
2. イ ただ有明の 月ぞ残れる
3. イ 雲がくれにし 夜半の月かな
4. ウ 寂蓮法師
5. ウ 良暹法師
6. ア むべ山風を あらしといふらむ
7. エ 藤原敏行朝臣
8. イ 雲がくれにし 夜半の月かな
9. ア むべ山風を あらしといふらむ
10. イ 夢の通ひ路 人目よくらむ

2回目

1. エ われても末に 逢はむとぞ思ふ
2. エ ただ有明の 月ぞ残れる
3. イ いづこも同じ 秋の夕暮
4. ウ 後徳大寺左大臣
5. エ 霧立ちのぼる 秋の夕暮
6. エ むべ山風を あらしといふらむ
7. エ 雲がくれにし 夜半の月かな
8. ウ 紫式部
9. ウ いづこも同じ 秋の夕暮
10. イ 文屋康秀

3回目

1. イ われても末に 逢はむとぞ思ふ
2. エ 藤原敏行朝臣
3. ア 霧立ちのぼる 秋の夕暮
4. エ いづこも同じ 秋の夕暮
5. イ 良暹法師
6. エ 夢の通ひ路 人目よくらむ
7. イ 文屋康秀
8. ア 紫式部
9. イ いづこも同じ 秋の夕暮
10. エ むべ山風を あらしといふらむ